

塚本 大樹 (熊本/96期)

5月防府の準決では岩谷拓の逃げに乗り小川真らに勝つと、同月松戸は1②②着と3日間確定板入りを果たして最近では差し脚好調だ。G3では2月平記念、4月四日市G3で準決に乗っている。



原口 昌平 (福岡/107期)

こここのところ準決が壁になっていたが、5月広島では1②着で今期初優勝を果たした。当所は昨年の10月に参戦していて、予選、準決と先行で連勝している。地元で相性もいいバンクなので注目したい。



岡崎 智哉 (大阪/96期)

柔軟性を兼ね備えた自力攻撃が冴え渡っている。4月～5月は13走して7勝を挙げている。勝率は5割を上回った。好走歴が多い一次予選はもちろん、二次予選でも一発には注意したい。



レインボーカップ チャレンジファイナル

6/29 (最終日) 3R

117期が7人、新人以外からは鱧淵圭佑、湯浅大輔が参戦するが、全員が次走からは2班に昇班するので、チャレンジ最強を決める純粹な力比べの一戦となる。関東、中部の2地区の選手が多いが、ライオン戦ではなく、個の勝負となると非常に難解。しかも、ここまで特班の可能性があるので、選手が複数いるので、本番は顔ぶれが変わってくることを考えてられる。一応、点数重視で本命には長屋秀明を推したい。昨年5V、今年も5Vとそもそも未だチャレンジにしているのが不思議な存在で、ダッシュには秀でたものがある。最近では先行して長い距離を踏むことを意識して組み立てて



長屋 秀明

いたが、過去に別で勝負した長谷部龍一と今回もラインを組まないのなら好きなタイミングで思い切り踏み出す得意のレースで決めてみよう。ただし、長屋は直前の場所で特班が懸かっている一人だ。中部では林敬宏の一発も怖い。先行力にかけてはこの中でも随一。好機に飛び出しても後続をモツれさすなり、その脚力を生かせる展開に持ち込めるかが勝敗の鍵を握る。関東では、藤田周磨、鈴木玄人が有力なV候補だが、両者ともにこの前に特班する可能性がある。出走なら持ち前の快速を発揮して優勝の可能性は高いが、狙いを下げたい。となると中村隆生、鱧淵圭佑が結束して強力中部勢に立ち向かうこととなる。6月小田原での特班には失敗した中村だが、6Vの実績は堂々たるもの。逃げて強いのだから、鱧淵の援護も受けての上位独占も十分。もちろん、降班して3V、連対率80%超の鱧淵も立派なV候補だ。

出走なら長屋秀に期待